

## 第1回 JIMTEF 災害医療研修スキルアップコース

2019年2月16日、立川にある災害医療センターにて第1回 JIMTEF 災害医療研修スキルアップコースが開催され、参加させて頂きました。

今回の研修は JIMTEF 災害医療研修ベーシックコースとアドバンスコースを修了していることが参加条件ということもあり、私が参加させて頂くことになりました。

JIMTEF（公益財団法人国際医療技術財団）とは、保健医療分野の課題の解決に必要不可欠な医療技術の振興、医療技術者の育成および医療サービスの改善に取り組んでいる国際協力 NGO であり、その活動の一つに災害医療研修があります。

今回の参加者内訳は日本理学療法士協会が最も多い22名でした。その他、日本柔道整復師会、日本語聴覚士協会等、13団体80名が参加されていました。また北は北海道、南は鹿児島県まで日本全国から集まっており、多職種、他地域からの受講者で構成されているのが JIMTEF の特徴です。

研修内容は、「事例：西日本豪雨と北海道胆振東部地震」「災害時診療記録」「グループワーク：災害派遣の実際」「演習：地域での災害時保健医療対策会議」の4つの講義からなりました。

事例を通じた研修では、例えば同じ豪雨災害においても地域によって災害の概要が異なるということ学びました。多発土砂災害ではライフラインが広域に破損されたり、洪水では家屋損壊の被害が増えるなど、災害の本質を捉えることで適切な活動内容を選択できるようになります。

また JIMTEF 研修の醍醐味は多職種によるグループワークや演習にあると私は思っています。実際の災害現場では DMAT（災害派遣医療チーム）だけでなく、我々理学療法士も多数参加している JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）や JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）、CPAT（臨床心理士支援チーム）など多職種による災害支援チームが連携を取りながら活動する必要があります。総合演習では、一つの地域で各災害支援チームが活動することとなり、多職種での連携のあり方や方法を検討しました。具体的に私の担当した JRAT チームでは、食事の配給や栄養問題に関して JDA-DAT に依頼したり、閉鎖的な住民への災害支援の方法について CPAT に相談するなどして、より良い災害支援について検討しました。

今後、理学療法士による災害支援のニーズは確実に高まってきます。その時、我々の「したい支援、できる支援」だけを考えるのではなく、「すべき支援」や「してほしい支援」を考え、多職種と連携して活動することが必要となります。本研修はそういった活動の足掛かりとなる研修であったと思います。

最後に、このような研修に参加する機会を与えて頂いた、日本理学療法士協会と神奈川県理学療法士会に感謝いたします。

相模原協同病院 佐藤陽介